2019年度

なは市民協働大学院
事業概要書

「じっくり、しっかり、ちゃっかり」

主催：那覇市（まちづくり協働推進課）

業務受託者：NPO 法人地域サポートわかさ

ブログ「なは市民協働大学院2019」 https://nahabito2019.blogspot.com

フェイスブックページ https://www.facebook.com/nahabito/

ブログ　フェイスブック

なは市民協働大学院２０１９について

●事業目的

なは市民協働大学院2019は、地域課題の解決に向けた動きをつくり出すコーディネーター的視点を持った人材『那覇人（なはびと）』の発掘・育成を目的としています。
そこで、『那覇人』を「地域の現状をしっかり把握し、課題を発見・定義する視点を持った上で、地域に必要なプログラムをデザインし、その実現に必要な人材や組織をつなぐ（コーディネートする）ことで、地域課題を解決できる人材」と定義し、『那覇人』になるために必要なスキルが学べるプログラム構成にしたほか、受講修了後に「地域コミュニティで活躍できる人材」「地域コミュニティをつなぐ人材」になるように促しました。

●コンセプト

「じっくり、しっかり、ちゃっかり」

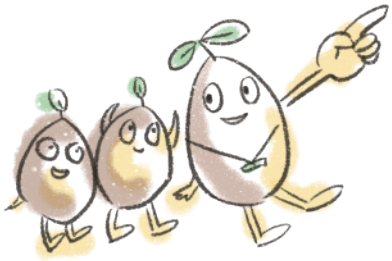
なは市民協働大学院2019では、地域で「じっくり、しっかり、ちゃっかり」活躍できる人材の育成を目指しました。

じっくり

地域の現状を鳥の目、虫の目でじっくり観察、把握して、地域の中に隠れた課題を発見できる

しっかり

発見した課題に対して、関係する人々をしっかりつなぎ、しっかりした企画をきちんと実現できる



ちゃっかり

課題に真摯に取組みつつも、周りのみんなとちゃっかり楽しんで、いつの間にかちゃっかり仲間を増やしている

●運営体制

なは市民協働大学院事業の受託者（NPO法人地域サポートわかさ）は、「第9回地域再生大賞」優秀賞をはじめ、「第13回ローカル・マニフェスト大賞」のコミュニケーション戦略賞ノミネート、若狭公民館の指定管理者として文部科学省「第70回優良公民館表彰」において最優秀館に選ばれるなど、地域づくりの取り組みは全国から高い評価を得ています。これまでの活動で得たノウハウを活用し、行政（まちづくり協働推進課）とそれぞれの特性を生かしながら協働で講座を企画、運営を行いました。
また、地域で活躍するNPOや各専門家、なは市民協働大学院OBOG等による**『那覇人チアーズ』**を結成し、受講生を伴走しながら応援すると同時に、講座で企画したアクションプランがより実現性の高いものになるように助言や人材紹介などに取り組んでいただきました。
さらに、講座以外でも日常的に意見交換、情報共有が行えるようにFacebookやLINEのグループを作成し、事務局と受講生の距離を縮め、継続的な関係づくりや双方向のサポート体制づくりに務めました。

受講生の応援団
那覇人チアーズ

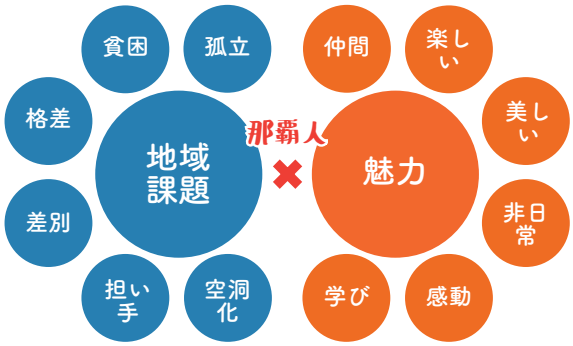
糸数温子（一般社団法人daimon代表）
浦崎共行（ASOBISYSTEM）
金城　聡（那覇市都市計画課）
小阪　亘（まちなか研究所わくわく）
高野大秋（那覇市社会福祉協議会）
知念忠彦（なは市民協議会）
饒波正博（なは市民協議会）
野原　巴（チームまちなか）
平中晴朗（チームまちなか）
南信乃介（1万人井戸端会議）★
森田利香（那覇市協働によるまちづくり推進協議会）
山城忠信（那覇市保護管理課）

★ は、チアリーダー。

「那覇人」育成プログラム

●地域課題 × 活動の魅力

地域課題の解決には特効薬がないため、市民が主体的かつ継続的に取り組む必要があります。そのため、地域の現状を把握し、適切な課題設定を行うと同時に、取り組み自体を楽しいと思える魅力あるものにしなければなりません。「那覇人」を、地域課題と活動の魅力をかけ合わせ、様々な資源をつなげることができる人材と位置づけ、そのために必要なスキルや考え方（じっくり・しっかり・ちゃっかり）を学ぶプログラム構成にしました。

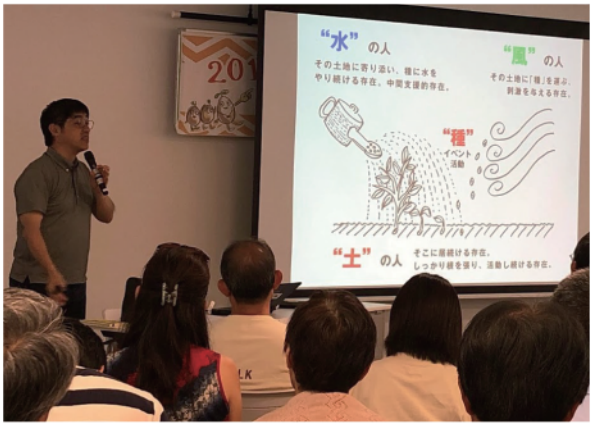


●「企画づくりのじゃばら手帳」活用

教材の『企画づくりのじゃばら手帳』は、企画の着想からニーズの把握、プログラム作成、そして実施後の評価や検証までの思考の流れを手帳に書き込むことによって整理されるようにデザインされています。講座プログラムは、手帳の内容とリンクするように構成されており、全8回の講座を通して自然に企画づくりのスキルと事業評価の視点が身につくよう設計しました。

●不完全プランニングと プラスクリエイティブ

公開講座では、テレビ番組「情熱大陸」や「世界一受けたい授業」に出演経験のある永田宏和氏をお迎えし、課題をひっくり返して楽しい取り組みに変えるコツについて学びました。地域で活躍する人を「風・水・土」に例えてお話いただいたほか、完全無欠の計画ではなく、みんなが参加できる余地のある「不完全プランニング」と活動を魅力あるものにするための「プラスクリエイティブ」をセットで考えることが重要であると学びました。



●修了後に繋がるネットワーク

講座は、受講生が活動している、またはしたい地域ごとにチームをつくり取り組み、修了後も活動が継続・連携しやすくなるように促しました。また、関係者へのヒアリングや講座内で各ステークホルダーを交えて企画のブラッシュアップを行うなど、企画の実現性を高めると同時に、修了後にも活かせるネットワーク構築に努めました。

全体スケジュール

全8回の講座は、地域課題の発見から解決に向けた企画・運営の一連の流れについて、実行の直前段階まで順を追って学べるプログラム構成にしました。座学や実習をはじめ公開講座、合宿など、すべての要素が繋がり、より学びが深くなるように設計しています。また、講座時間以外でも、必要に応じて相談会や勉強会を設け、受講生が内容を理解し、目標を達成できるように努めました。那覇人チアーズは、全体の進捗状況に応じて適宜会議を開催したほか、講座内で受講生への助言を行うなど、伴走しながら企画実現への後押しをしました。

受講募集

「那覇人チアーズ」会議および講座参加　相談会・勉強会

目標設定

第1回

入学式・オリエンテーション

学長挨拶（城間幹子市長）/イス取りde自己紹介/プログラム説明/暫定的チーム分け/チーム紹介・決意表明

第2回

校区まちづくり協議会について学ぶ/OB・OCの活動について

講師：那覇市まちづくり協働推進課、なは市民協働大学院OB・OG（チーム小禄・ちーむWAKASA・チームまちなか）/調査シートについて説明/作戦会議と役割分担

調査

第3回

相談会

人が集まる企画づくりのコツ～ロジックモデルと事業評価

講師：宮城潤（事務局）/グループワーク（調査の進捗確認）/次回（調査結果と課題発表）内容説明/校区選定

第4回

相談会

対象地域の現状と課題/調査結果発表

調査結果と地域課題の発表（校区選定理由・調査と分析結果）/チーム再編成
※第3回および第4回終了後に「相談会」を実施。調査や課題の深堀りについて個別相談

課題設定

第5回

地域課題×活動の魅力　公開講座
～不完全プランニングとプラスクリエイティブ

講師：永田宏和氏（KIITO副センター長・NPO法人プラスアーツ理事長）/講話と質疑応

企画

第6回

企画づくり強化合宿&中間発表　特別合宿

ロジックモデル仮説検証/企画アイディア出し/「森の指令ゲーム」講師：藤井晴彦氏（森の家みんみん）/斜にかまえる・かまえないワーク/カレー対決/中間発表/相互助言

第7回

企画ブラッシュアップ/発表準備

各チームの企画に関わるステークホルダー（行政機関・地域団体等）と企画ブラッシュアップ/「プレゼンのコツ」講師：石垣綾音（事務局）/最後の進捗確認・決意表明

具現化

第8回

最終成果発表会・修了式

【最終成果発表会】　取り組み概要説明/アクションプラン発表/講評
【修了式】　学長挨拶（城間幹子市長）/修了証・感謝状授与/修了生代表挨拶

勉強会

※東京大学等が取り組むCOG（チャレンジ・オープンガバナンス）に企画応募を検討しているチームに対して勉強会を実施

講座の様子

第1回
入学式・オリエンテーション

第2回
校区まち協/OBOGの活動について

第3回
人が集まりたくなる企画づくりのコツ

第4回
地域の現状と課題/調査発表

第5回〔公開講座〕
地域課題×活動の魅力

第6回〔特別合宿〕
企画づくり強化合宿/中間発表

第7回
企画ブラッシュアップ/発表準備

第8回
最終成果発表会

相談会・勉強会

第8回
修了式

最終成果発表（アクションプラン）

近所で WAKUWAKU 首里チーム

【対象校区】城北小学校区

【メンバー】
稲嶺安洋・上江洲徹也・鎌田耕・新里史子・津波美由樹・屋宜貢・山里カズミ・山戸 隆秀

平常時から災害時へつなぐ近助 ～独居高齢者を近所で近助～

■課題設定

自治会加入率（約３割）は年々低下し、高齢化も進んでいる。地域とのつながりが弱い方や、自治会未加入の方などへの見守りが不足しており、大規模災害発生時の支援体制が問題となっている。

■企画内容

日常から顔が見える関係性をつくり、大規模災害発生時の避難行動支援に備える。1stステップとして「75歳以上の高齢者のみの世帯」が必要としている、「見守り」、「ごみ捨て支援」、「買い物支援」といったサービスを「近所で近助ポイントシステム（略：KKPシステム）」をとおして構築する。
2ndステップは、年に２回「ほしぞら上映会 × 防災グッズ体験泊」を開催する。利用者、子ども、大人、高齢者誰もが参加し楽しめる映画を上映する。同時にKKPシステムで配布した防災グッズの体験と防災キャンプを行う。

■目標

いろいろな世代の方の顔が見える関係性と皆が楽しく集まる日常を作り、そして防災に備えることで、安全で安心で住みやすく"楽しい"城北校区、ここに住んで良かったと思える地域を作る。

チアリーダー
南さんのコメント

非常に分かりやすいし、良い内容だった。高齢者の自尊心や、やりがい、生きがいなど考慮しつつ進めてほしい。ポイントシステムは魅力的だが、予算や人の確保は大変、まずは一歩ずつが良い。協働の面白さは誰がどこで一気に前進するか分からないところ。是非多くの人巻き込んでほしい。

チーム小禄

【対象校区】金城小学校区

【メンバー】
宇久淳子・金城まり奈

金城地区子供企画部 ～楽しいことは任せとけ！～

■課題設定

沖縄戦後米軍の基地として接収され昭和62年に全面返還されるまでは米軍の住宅地として使用されていた金城地区。返還後、区画整理された地域はインフラが整い年齢層に関係なく人気のあるエリアである。しかし、戦後この地区に戻ってきた住民と新しく住み始めた住民のつながりが薄い。それを打開するためには、今までとは違う新しい視点とアイデアを持つであろう"風の人"の人的リソース（アイデアを運んできてくれる人材）が必要である。

■企画内容

金城小学校区まちづくり協議会に、子ども主体の子ども企画部を作り、地域の子ども自らが自分の地域で好きなイベントを作っていく。ゆくゆくは小学生～大学生までの幅広い年齢で構成していきたいが、まずは地元専門学校の学生からメンバーを募る。幅広い年齢の子ども企画部になった時には、異なる年齢間での交流が可能となるため、学生を卒業し世代交代や人の入れ替えがあっても地域との関わりが持てるコミュニティとなる。

・地域の場所的リソースを活かす（どんぐり公園・金城公園）　・どんぐり公園に琉球特有のどんぐりの木を植える　・大学生の巻き込み×星空観察会　etc...

チアリーダー
南さんのコメント

最新機器でのプレゼン良かったです。星空観察など具体的なイメージができたプレゼンだった。
巻き込みたい人をしっかりと捕まえて、企画を進めてほしい。企業や個人とのコミュニティ形成を頑張ってほしい。

最終成果発表（アクションプラン）

ごきげん ヒューターンズ

【対象校区】壺屋小学校区

【メンバー】
幸喜敦・小濱裕子・奥濱仁美・金城ゆかり・崎山敦彦・萩原雄三

わったーまちの自慢話（すぐりむん）

■課題設定

伝統文化を担う高齢層と次世代間で、人材不足や感覚の違い等から継承が難しい。自治会の地縁意識が強いことやそもそも自治会が無いことから、元からの住民と新住民との間で、コミュニケーションをとる場が少ない。校区内に中学校が無く、安里・牧志・壺屋の3地区相互での交流が希薄になりがちである。

■企画内容

地域に埋もれている歴史や文化について、その軌跡や想いをのせた“自慢話”を綴り、ひとつの番組・作品を制作する。インタビュー映像を「場所/有名人/老舗…」などのテーマで編集し、数回に分けて鑑賞することを中心にイベントを企画する。“語りべ”には、3地区のバランス・多世代・多様性を考慮して100人を選び、人間性や地域への愛着が伝わる内容を引き出したい。イベントのメインプログラムは、『100人インタビュー上映会』と『各地区代表3人によるクロストーク』。会場は壺屋小学校のグラウンド。テーマに応じて、アーカイブ映像を上映したり、地域の駄菓子を復元したり、学校のイスを並べるなど応援アイテムも企画する。100人の住民が関わることで、その家族や友人が集まり、共通の話題ができる。相互理解のもと尊重し合い、地域のアイデンティティを育むきかっけとする。

チアリーダー
南さんのコメント

発表慣れしてる方多かったですね。
やりたい事を絞りきったのはすごいと思う。多世代の橋渡しは大変だが、地域コーディネーターや協働大使を巻き込んで取り組んでいってほしい。

チームあかばな

【対象校区】上間小学校区

【メンバー】
新垣順子・伊佐千代美・石川佐登美・上里春香・我如古るみ子・津波智子・中川廣江

なんだか、行きたくなる場所 ～宝さがしプロジェクト～

■課題設定

誰でも、いつでも、気軽に「集える場所がないこと」が、課題。
独自調査により、どの世代も「集える（ゆんたくできる）場所」を求めていることがわかった。特に、子どもと子育て親世代に注目した。上間小学校のすぐ近くには、公民館も、児童館もない。子ども会もない。核家族やひとり親世帯が多いという現状も見逃せない。そこで、顔と顔を合わせて（防災・防犯につながる）、人が集える（人と人がつながる）場所として、今ある資源「公園」を活用する。

■企画内容

公園を拠点として、地域住民が顔を合わせて楽しめる企画を考える。
企画①「公園de朝ごはん」
・長田北公園で、毎週日曜日、朝6時30分から長田1丁目自治会が清掃活動を行っている。その清掃後に「朝ごはん会」を開く。（月1回）
企画②「公園deイベント」
・国場・識名・古波蔵児童館と連携・協力を得て、児童館まつりのような移動児童館（3カ月に1回）を公園で行う。集団遊び、手遊び、ものづくり、季節の遊びなど。
・包括支援センター識名制作「長田ゆいまぁるマップ」を活用した街歩きイベント開催。

チアリーダー
南さんのコメント

レディースの華やかな団結力。親世代と子どもをターゲットとした愛のある企画だと思いました。
リサーチ力と分析力、連携先が見えているのがすごい。地域資源との繋ぎ役としても期待します。
集いやすやさなどを意識して、周辺の学校とも意識を合わせることができると良いと思う。

最終成果発表（アクションプラン）

わくわく新都心チーム

【対象校区】天久小学校区

【メンバー】
新井邦弘・上原巧也・塩真孝彰・大城真喜子・畑瀬裕子

新都心公園避難村

■課題設定

天久小学校区は、まちづくり協議会がまだ発足していないために、学校や自治会、地域の活動団体や住民相互の連携が弱いことが、聞き取り調査から分かった。
そのために新都心地域で暮らす人・働く人が災害時に、助け合いやスムーズな避難ができるか不安がある。

■企画内容

参加したくなるイベントを通して、防災に関心を持ってもらう企画を提案します。
「防災キャンプ」・・・新都心公園でキャンプをしながら防災を学ぼう
「ペット防災」・・・ペットといっしょに同行避難
「防災川柳コンテスト」・・・クスッと笑える防災川柳
「炊き出しコンテスト」・・・人気No.1の炊き出しはどれだ？
「避難所ファッションショー」・・・おしゃれで機能的な一品！
「防災あるある劇」・・・笑いあり涙あり
「桃太郎プロジェクト」・・・新都心地域の店舗の協力により、きびだんご（クーポン）を提供してもらい、防災イベントへの参加者を募る
☆アンケート調査・分析→次回に繋げ、地域連携を促すため、楽しく活動開始！

チアリーダー
南さんのコメント

しっかり防災を意識している。観光客や地域の人が新都心公園を避難所として意識しているかと言えば、その認識はまだ薄いと思うので、そこにアプローチできそう。アンケートを取り資源をうまく分析、リサーチしている。イベントとの連携案もすごく良いと思う！ 継続性も高まるし、期待している。

チーム WANGAN

【対象校区】天妃小学校区

【メンバー】
瀬底あけみ・平良治・真喜志昇・原田三友美・吉田 修・松前英行

いちゃりば いちどぅし 大作戦

■課題設定

天妃小学校区まちづくり協議会への聞き取りやアンケート調査、町歩き、外国人への聞き取り調査を行った結果、外国人は自転車の乗り方が悪い、集団で歩く、夜部屋で騒ぐ、ゴミの捨て方が悪い等の問題が上がった。最初はその中でも一番多く見受けられた自転車の乗り方について、課題解決を行おうと考えたが、実際に道で観察していると日本人にも自転車の乗り方が悪い人は多いことがわかり、むしろよく知らない、偏見、誤解があるのでは、と考えた。

■企画内容

チームメンバーの一人が勤める大庭学園の学園祭にあわせて、外国人と日本人の交流企画をやることに決定した。外国人留学生と日本人学生が事前に打ち合わせをして交流企画をたてる。（例えば、留学生がダンスを披露→クイズで盛り上がる→日本人学生も一緒に全員でダンスを楽しみ交流する等）を行い、交流を深め仲良くなるような企画を考えている。
この交流企画をパッケージ化し、保育園・こども園や小中学校、自治会、老人会、まち協等に、出張して実施することで、日本人も外国人も笑顔で住める天妃小学校校区の実現をめざす。

チアリーダー
南さんのコメント

外国人への課題設定に納得した。実行力がすごい。交流から始めたいというのは良いと思う。交流はゴールではなくスタートなので、交流の先にある未来や地域の姿をみんなで楽しく考えていってほしい。継続性が担保できるよう、1,2年ではなく5年,10年の視点で取り組んでいってもらえたら嬉しい。

受講結果

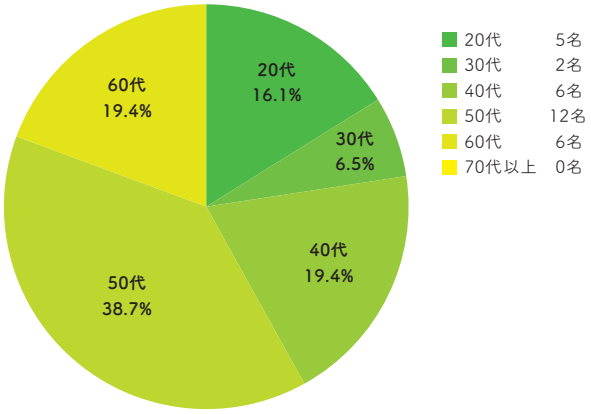
●受講生について

受講生募集については、チラシや那覇市ホームページの他、SNS等を活用し、周知に注力しました。その結果、申込期限内に39名の申し込みがあり、過去に受講経験のない31名を受講生として決定しました。受講生の世代や属性は幅広く様々ですが、すでに地域活動を行なっている方がほとんどで、「なは市民協働大学」の上級編としての位置づけどおり、地域の実情に即した実践的な取り組みを行うことができました。また、各講座への出席率も高く、受講生の90%以上となる28名が修了しました。

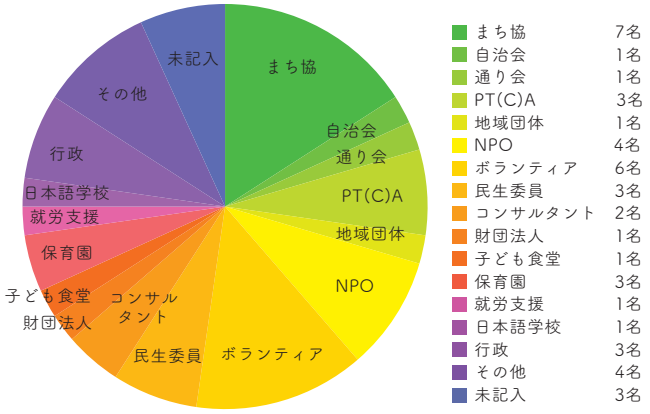
修了生 28名 / 受講生 31名

【サポメン制度】
定員を上回る申込があったため、過去に受講経験のある方7名は、ともに活動しながら受講生の活動をサポートする「サポメン（サポートメンバー）」として受講を受け入れました。

【受講生の世代】



【受講生の属性】 ※複数回答可



●受講生の声

良かった点、印象に残ったこと

・やっぱり合宿です。斜にかまえる、かまえない。森の指令ゲームをとおして、見えない事を知ることができました。同じチームのメンバーと出会えてとてもよかった！

・公開講座の中であがった課題へのアプローチ、とくにそのマーケティング、ブランディングがとても勉強になりました。特に〇〇じぃ～シリーズ！

・皆さんの優しさ、地域への想いの強さ。課題と現状は違うということ。→とても企画作成において勉強になった。こんなステキで熱い想いを持った人々が地域を良くしようと考えていることに感動した。

・合宿でチーム間の絆が作れたこと。とても楽しかったです。永田さんの講座は非常に参考になりました。完璧を目指すのではなく不完全さを入れ込んで、地域を巻きこむことが大切なとこだと気づきました。

本講座を通じて学んだことや変化

・とにかく視点の変化。予想以上の効果があったと思います。

・地域で色んな活動をし、活躍している人とつながることができ、どんな人がそれに取り組んでいるのかをとても学べた！ どう人を巻きこめばいいか/どこに地域活性化に興味のある人がいるのか知った。

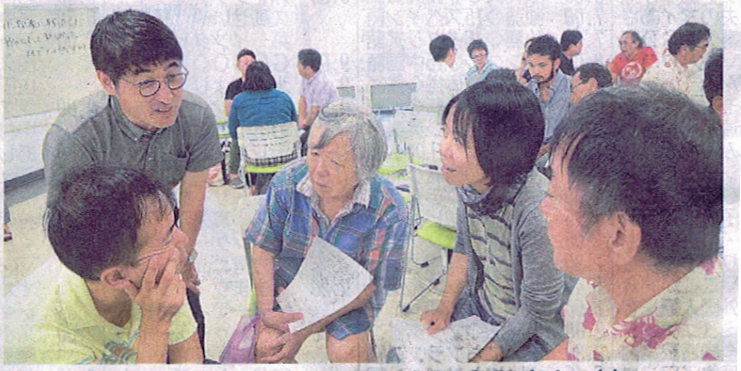
・それぞれの地域に対する想いが深まった。進んで参加していきたい。

・考え方、ロジックの学び、そして人々との出会いは、非常にいい経験になりました。

新聞掲載記事

「創造性で地域課題解決」

市民協働大学院 永田さん講話



参加者に助言する講師の永田宏和さん（左から２人目）＝那覇市銘苅のなは市民協働プラザ内なは市民活動支援センター

那覇市主催の「なは市民協働大学院」（学長・城間幹子市長）の一般公開講座がこのほど、同市銘苅のなは市民協働プラザで開催された。デザイン・クリエイティブセンター神戸「KIITO」の副センター長でNPO法人プラス・アーツ理事長の永田宏和さんが講師を務め、創造性を取り入れた地域課題の解決手法などについて語った。

永田さんは、楽しく学ぶ防災体験プログラム「イザ！　カエルキャラバン！」の開発をはじめ、地域課題への取り組みをユニークな切り口で企画・プロデュースしている。

永田さんは「（時代の流れの中で）子どもから高齢者まであらゆる世代がクリエーティブになるための創造教育や社会・地域課題に立ち向かっていける人材育成が重要だ」と強調した。

土地に根差して活動し続けている人を「土の人」、地域にイベントや活動などの「種」を運び刺激を与える専門家らを「風の人」、中間支援的役割を果たす自治体やNPOなどを「水の人」と表現し「地域豊饒化（活性化）は3者がそろってうまくいく。皆さんは『風の人』を目指して」と語り掛けた。

街づくりにおいて「住民の参加や交流を促すプログラムは完成したパッケージにせず、みんなが関われる余地がある『不完全』な形がいい」と指摘し「課題解決＋クリエーティブ」という手法を提案した。

（中川廣江通信員）

琉球新報
2019.10.29

地域課題解決へ 協働大学院開講

31人が入学

那覇市まちづくり協働推進課が主催する2019年度なは市民協働大学院（学長・城間幹子市長）の入学式がこのほど、那覇市銘苅のなは市民協働プラザであった＝写真。卒業生7人をサポーターに加え、受講生31人が11月まで全8回のプログラムを通して街づくりを学ぶ。

同大学院は、地域の課題解決に向けた動きをつくり出すコーディネーター的視点を持った人材の発掘や育成を目的とし、その人材を「那覇人（なはびと）」と名付けている。講座の企画・運営は、市若狭公民館を運営するNPO法人地域サポートわかさが受託している。那覇人応援団として、地域活動のキーパーソンや同大学院の卒業生らで構成する「那覇人チアーズ」も結成された。

城間市長は「学びを楽しみ、築いたネットワークで『那覇人』として活躍してほしい」と受講生を激励した。（中川廣江通信員）

琉球新報
2019.8.20

新聞掲載記事

地域の課題向き合う

なは市民協働大学院 6チームが成果報告

独居老人支援など提案

【那覇】なは市民協働大学院の成果発表会が11月24日、市銘苅のなは市民協働プラザで開かれ、首里、小禄、中心市街地、真和志、新都心、那覇西の6チームが地域課題を解決するアクションプランを発表した＝写真。

チーム首里（城北小学校区）は、「近所で近助」をキャッチコピーに、75歳以上の独居高齢者が必要とする「見守り」や「ごみ捨て」「買い物」支援を近所で担う仕組みの構築を訴えた。同校区は、自治会活動は活発だが加入率は年々低下、高齢化も進んでいる。そのため地域とのつながりが弱い世帯や自治会未加入の世帯への見守りが不足。大規模災害発生時の支援体制が課題となっている。

各チームの応援団「那覇人Ｃｈｅｅｒｓ」のリーダー南信乃介さん（市繁多川公民館長、1万人井戸端会議代表）は、チーム首里の提案に対し「自治力でカバーできなくなっているテーマの一つ。こつこつ積み重ねることで波及効果が生まれる」とコメントした。

チーム小禄は「金城地区子供企画部・楽しいことは任せとけ！」、中心市街地は「わったーまちの自慢話・すぐりむん」、真和志は「なんだか、行きたくなる場所公園・宝探しプロジェクト」、新都心は「新都心公園避難村」、那覇西は「いちゃりば　いちどうし　大作戦」のテーマでそれぞれ地域課題の取り組みについて提案した。

（上間昭一通信員）

沖縄タイムス
2020.12.2

地域の課題 解決策提案

市民大学院で成果発表

城間幹子市長を囲み、修了証書を手にする第5期受講生ら＝那覇市銘苅のなは市民活動支援センター

那覇市まちづくり協働推進課が主催する講座「なは市民協働大学院」の第5期受講生による成果発表会がこのほど、市銘苅のなは市民活動支援センターで開かれた。6チームが地域の課題解決に向けた企画案を発表した。発表後に受講生28人は、同大学院学長の城間幹子市長から修了証書を受け取った。

講座は地域課題の解決に向けた動きをつくり出すコーディネーター的視点を持った人材「那覇人（なはびと）」の発掘・育成を目的とした。地域ごとに首里、小禄、中心市街地、真和志、新都心、那覇西の6チームに分かれて活動、課題に向き合い、解決に向けた企画案を打ち出した。

各チームとも住民同士のつながりや交流の希薄さなどを課題に挙げ、コミュニティーづくりの重要性などを熱弁した。その上で防災企画や公園を拠点とした企画、100人インタビュー上映会、地域に住む外国人との交流イベントなど、地域の特性や多様性を生かしたオリジナリティーあふれるアイデアを発表した。「那覇人」として既に企画を実現させているチームもあった。（中川廣江通信員）

琉球新報
2020.1.14

大学院修了～那覇人として地域へ

大学院修了式では、受講生を代表して伊佐千代美さんがチームあかばなの皆さんと群読による挨拶を行いました。講座でのエピソードを交えて受講生の心情を表現し、「なはびととして、未来へ羽ばたいていきます！」と力強く宣言すると、会場の拍手は鳴り止まずアンコールが飛び出し、市長もスタンディングオベーションで祝福するなど、大いに盛り上がりました。この熱は大学院修了後も継続しており、各チームともアクションプラン実現に向けて動き始めています。

大学院修了生代表のあいさつ

代表：伊佐千代美（チームあかばな）

※（　）は、チームあかばなによる群読

私たちは、（私たちは、）
2019年6月、なーふぁんちゅだけど、
まだ、なはびとじゃなかった私たち。
なは市民協働大学院に入学してしまった。
（まだ、なはびとじゃなかった）
座学4割、実習6割のフレーズにだまされた。
でも、気がついた時には手遅れ。（もう遅い。）
入学式で突然、決意表明もしてしまった。（してしまった。）
そんなつもりじゃなかったよ。
こんなに頑張るつもりなかったよ。
（いいえ、私たちは頑張るつもりだった。）
気づいたら、オレンジ色のファイルと共に
ジャバラ手帳を握っていた。
10月には、みんみんの森に迷い込み、
今まで見たことがない緑色のカタツムリを探した。
時間ギリギリで探しても、ほとんどポイントがもらえない。
地区の食材でカレー作り、地域愛だけは半端ない。
チーム真和志は、4位で撃沈。（撃沈。）
絆を深めた私たち。あーめげない。（あーめげない。）
何回も集まって企画練る。（企画練る。）
色々な職種や年齢の垣根を越え、街づくりに挑んだ。（挑んだ。）
私たち、なは市民協働大学院5期生は、
なはびととして、じっくり、しっかり、ちゃっかり、
未来へ羽ばたいていきます。（羽ばたきます。）